

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 8 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18247

研究課題名（和文）サバンナの農業の近代化をめぐる社会／環境史

研究課題名（英文）Social History of the Agricultural Modernization in Northern Ghana

研究代表者

友松 夕香（Tomomatsu, Yuka）

法政大学・経済学部・教授

研究者番号：70814250

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、西アフリカのサバンナ地域に位置するガーナ北部を舞台に20世紀後半からの農村経済の転換期に注目し、男性と女性の生計関係の変容を分析した。その成果として、男性が主役となってきた農業が悪化したとき、女性たちが農業労働と家庭での食料供給の役割を増加させてきたこと（労働の女性化）を明らかにした。さらに同じ時期にフェミニズムが国際開発政策と合流して始動した女性の経済活動を拡大させる支援が、女性の労働を過酷化させてきた問題を指摘した。男性と女性の生計関係の不可分さを浮き彫りにすることで、女性の経済的な自立を推進する国際協力のジェンダー政策の矛盾を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、男性と女性の間の不可分な生計関係に着目し、農村部の社会・環境の変容にともなう労働の女性化を描くことで、フェミニスト経済学の限界やジェンダー平等政策の矛盾を明らかにしたことである。国連をはじめとする開発援助機関は、女性の食料生産の役割を強調したり、女性の自律／自立を目的として、農村部の女性を対象に土地の再分配を促し、技術供与や資金提供をしてきた。こうしたジェンダー平等政策は、重労働である農業を美化しており、家事をはじめとする過重の役割を担う農村部の女性たちの労働をさらに過酷化させている。ジェンダー平等政策の一義的な推進を再考するうえで本研究は実践的にも大きな意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the critical juncture of the rural economy from the late 20th century, this study analyzed the transformation of the livelihood relationship between men and women in northern Ghana, located in the savanna region of West Africa. The inseparable livelihood relationship between men and women demonstrated in this study revealed that the decline of agricultural production that men have mainly engaged in led to an increase in women's farm labor and household roles in the food supply. It also highlighted the contradiction that the international development policy that supports expanding economic activity to women has not improved women's well-being as envisioned but has intensified women's labor burden.

研究分野：アフリカ地域研究

キーワード：ジェンダー 国際開発 農業 ガーナ 科学技術

1. 研究開始当初の背景

ガーナ北部は、西アフリカの内陸部のノーザン・ギニア・サバンナ気候帯に位置している。降雨パターンが不安定なこの地において、人びとは、自然環境に適した間作や輪作の技術を生みだし、食料の確保と収量の向上を試みてきた。また、経済環境が変動するなかで、男性と女性たちは暮らしを継続させるためにそれぞれ異なる地位や役割をもとに分業形態を築き、変化させてきた。

ところが、植民地化以降、人びとが編み出してきた農法と暮らしの営み方は修正の対象となってきた。ガーナが独立を果たす 1950 年代ごろより、農業の近代化に向けた政策が開始されたのである。しかし、想定されていたような土地生産性の向上は現在に至るまで実現していない。長い間にわたりさまざまな近代化政策が実施されてきたにもかかわらず、なぜ土地生産性は低迷しているのだろうか。

この背景について、先行研究では、80 年代からの構造調整政策の影響だけではなく、政策の実施をとりまく政治的な腐敗、また新たな技術の普及につながりにくい経済環境の不備に求められてきた。こうして、ガーナ北部をはじめとする西アフリカのサバンナ地域は、沿岸部やカカオ生産が盛んな熱帯雨林地域の「豊か」なガーナ南部との対比から「おくれた場所」、そして「政策が失敗する場所」として認識されるようになったのである。この一方で、制約が大きいサバンナの環境において一義的に農業の近代化を推し進めることがどれだけ妥当なのか、その検討は軽視されてきた。

2. 研究の目的

上述した問題意識のもと、本研究では環境史の視点を取り入れ、ガーナ北部を対象に農村部の人びとがどのように農業の近代化政策を実践してきたのか、その過程を歴史的に検討する。この作業をとおして、「おくれた場所」として、そして農業の近代化政策が「失敗する場所」としての、これまでのガーナ北部の農業をめぐる現代史を描きなおし、農業を生計の基盤とする人びとが直面している問題の所在を分析することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

研究の主な対象地は、申請者がこれまで調査地としてきたガーナ北部の西ダゴンバ地域である。老齢世代の男女、元農業普及員への聞き取りの内容、そして新聞、ガーナ国立公文書館が所蔵する史料（農業政策、州・郡レベルの農業報告書）、農業局関連の公報誌を組み合わせ、分析する。民族誌的調査手法を採用して観察と会話の内容を記述するだけでなく、歴史的手法を採用して人びとの語りと記憶を行政史料と突き合わせることで農村経済の転換の過程を跡づけする。

4. 研究成果

本研究では、ガーナ北部の農村部を舞台に 20 世紀後半の農村経済の転換期に注目し、男性と女性の「不可分な」生計関係とその変容を分析した。これは、当初、研究課題の一つとして想定していた「ジェンダー」に焦点を当てて考察を深めることで、社会・環境史研究を進めたものである。

ガーナ北部では、1950 年代より緑の革命が始まった。近代農法の導入はそれまでの間作と輪作からなる緻密で持続的な農法を解体した。続く 1970 年代より多産少死の時代に入り、人口増加が土地不足と地力の低下を招いた。その後、1983 年より始まった構造調整政策は、1990 年代にかけて肥料価格を高騰させた。この結果、男性たちが責任を負ってきた自家消費用の穀物の収量が低下し、家々では食べるための穀物が恒常的に不足するようになった。こうしたなか、日々、家で食事を用意する女性たちは、穀物をはじめとする作物をできるかぎり多く確保し、食材を獲得しようと奔走した。女性たちは、夫などの男性に土地の一部を要求して自分で畑を耕作し始めた。また、分け前を得る目的でほかの家の男性の作物の収穫を手伝いに出向いたり、男性が収穫するはずの作物を自ら先に収穫したりするようになった。農業の低迷にともない、女性たちは農業労働を強化させることで、男性に代わって家計の負担を増やしていったのだ。

ここから浮き彫りになったのは、おりしも同じく 20 世紀後半に始まった、女性の農業生産を拡大させる国際開発政策が、女性たちの労働と家計負担の増加に加担してきた問題である。国連をはじめとする開発援助機関は、女性の自律/自立のためとして、また女性の食料生産の役割を強調して、農業分野のジェンダーギャップを解消することを目標にかかげている。その手段として、女性を対象に土地の再分配を促し、技術供与や資金提供をしてきた。援助機関のホームページには、女性への農業支援を歓迎する、当事者としての女性たち自身の声も掲載されている。女性も耕して稼ぎ、食料を生産することで子どもたちを食べさせるという開発言説を当事者である農村部の女性たち自身も語るが、これは生活が苦しいなか、支援を得ようとする女性たちの生存戦略であり、この結果女性たちの労働がさらに増加し、過酷化していることを指摘した。本研究の学術的成果は、農村部で暮らす女性と男性の不可分な生計関係と経済環境が変化に際する

「労働の女性化」を明らかにすることで、女性と男性の権力関係を注視するフェミニズム論の限界を示した点にある。また、女性の男性からの経済的な自立を推進する女性のエンパワーメント手法が女性の福利を向上させていない矛盾を指摘し、ジェンダー平等を一義的に推進する政策を問い直すための議論を喚起させたことが本研究の実践的な成果である。コロナ禍の影響もあって現地調査ができず、ジェンダー関係・労働を中心に考察を深める環境・農業史研究として研究計画を変更したが、結果として多くの業績をつくることができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 友松夕香	4. 巻 270
2. 論文標題 農業の女性化 フェミニズムとポストコロニアリズムの国際開発をめぐるパラドックス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 技術革新と農村の衰退（日本農業史学会大会シンポジウム「戦後日本農業・農村における技術革新の歴史的経験 人びとはテクノロジーに何を託したのか」コメント）
3. 学会等名 2024年日本農業史学会研究報告会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 ジェンダー政策を再考する ガーナ農村部の女性の地位向上と労働・家計負担の増加
3. 学会等名 『労働の理念と現実（イスラーム・ジェンダー・スタディーズ8）』刊行記念シンポジウム
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 ジェンダー政策の誤想 西アフリカ・サバンナ農村の女性の労働と家計負担の増加
3. 学会等名 科研費・基盤研究（A）「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究 労働の理念と実態」第2回研究会，オンライン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 ガーナの土地取引をめぐる伝統的權威の歴史的展開と魅了
3. 学会等名 科研費・基盤研究(A)「アフリカ国家論の再構築」第2回研究会, 東京外国語大学本郷サテライト
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 サバンナのジェンダー 西アフリカ農村経済の民族誌
3. 学会等名 地域研究コンソーシアム(登竜門受賞記念講演)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuka Tomomatsu
2. 発表標題 'Feminization of Agriculture': Economic Changes, Developmental Discourses, and Gendered Livelihood Relations
3. 学会等名 African History Workshop, Princeton University(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 サバンナのジェンダー 「フェミニズム」と開発、女性たちの労働の現代農業史
3. 学会等名 日本文化人類学会 関東地区研究懇談会(東京大学)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 労働の女性化 アフリカの経済変容、農業とジェンダー政策の今後を考える
3. 学会等名 国際開発研究大来賞受賞記念講演（国際開発機構）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 友松夕香
2. 発表標題 サバンナの樹木を飼い馴らす？シアナッツの栽培種化をめぐるガーナ北部の近代史
3. 学会等名 食と農をめぐる歴史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuka Tomomatsu
2. 発表標題 Taste of Everyday Dishes: 'Food Shortages' and the New 'Cash Crop' Economies in the 20th to the Early 21st Century Northern Ghana
3. 学会等名 African History Workshop, Princeton University (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 友松夕香ほか（長沢栄治 監修、岩崎えり奈・岡戸真幸 編）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 労働の理念と現実（分担執筆「ジェンダー政策を再考する ガーナ農村部の女性の地位向上と労働・家計負担の増加」）	

1. 著者名 友松夕香ほか（山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子 編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 論点・ジェンダー史学（分担執筆「国際開発のジェンダー政策」）	

1. 著者名 スタニラウス・アクア、友松夕香ほか（阪本公美子・岡野内正・山中達也 編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 日本の国際協力 中東・アフリカ編 貧困と紛争にどう向き合うか（分担執筆「対ガーナ援助 経済自由化と格差是正の支援課題」）	

1. 著者名 友松夕香ほか（藤原辰史 編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 歴史書の愉悅（分担執筆「人びとの過去に接近する」）	

1. 著者名 友松夕香（単著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 496
3. 書名 サバンナのジェンダー 西アフリカ農村経済の民族誌	

1. 著者名 友松夕香 (浜田明範 編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 悠書館	5. 総ページ数 256
3. 書名 再分配のエスノグラフィ 経済・統治・社会的なもの (分担執筆「執拗な共食 ガーナ北部における穀物の不足と同居家族の「世帯」の営み」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Researchmap (友松夕香) https://researchmap.jp/yukatomomatsu 法政大学経済学部経済学科 (友松夕香) https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/126/0012502/profile.html 法政大学 (個人ホームページ) https://yukatomomatsu.ws.hosei.ac.jp/

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------